

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）
水 安 心 （ 全 て の 国 民 が 安 心 し て お い し く 飲 め る 水 道 ）  水 質 源 の 保 全	1001	原水水質監視度	$(\text{一日平均配水量} / \text{確保している水源水量}) \times 100$	%	—	71.9	72.0	一日平均配水量（33,496 $\text{m}^3$ ）、確保している水源水量（46,550 $\text{m}^3$ ）です。
	1002	水源余裕率	$[(\text{確保している水源水量} / \text{一日最大配水量}) - 1] \times 100$	%	—	20.7	21.4	確保している水源水量（46,550 $\text{m}^3$ ）、一日最大配水量（38,358 $\text{m}^3$ ）です。
	1003	原水有効利用率	$(\text{年間有効水量} / \text{年間取水量}) \times 100$	%	高い程良	99.4	98.6	年間有効水量（12,104,901 $\text{m}^3$ ）、年間取水量（12,270,961 $\text{m}^3$ ）です。
	1004	自己保有水源率	$(\text{自己保有水源水量} / \text{全水源水量}) \times 100$	%	—	37.6	37.6	自己保有水源水量（17,500 $\text{m}^3$ ）、全水源水量（46,550 $\text{m}^3$ ）です。
	1005	取水量1 $\text{m}^3$ 当たり水源 保全投資額	水源保全に投資した費用／その流域からの取水量	円/ $\text{m}^3$	—	0.0	0.0	水源保全に対する投資はしていません。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）	
安心（全ての国民が安心しておいしく飲める水道水の供給）	水源から給水栓までの水質管理	1101	原水水質監視度	原水水質監視項目数	項目	高い程良	*59	*58	基準項目39、管理設定項目6、要検討項目・環境利用・その他13
		1102	水質検査箇所密度	$(\text{水質検査採水箇所数} / \text{給水区域面積}) \times 100$	箇所/100k m	高い程良	22.8	22.8	水質検査採水箇所数（6箇所）、給水区域面積（26.32km <sup>2</sup> ）です。
		1103	連続自動水質監視度	$(\text{連続自動水質監視装置設置数} / \text{一日平均配水量}) \times 1000$	台/（1,000 m <sup>3</sup> /日）	高い程良	0.149	0.149	連続自動水質監視装置設置数（5箇所）、一日平均配水量（33,496m <sup>3</sup> ）です。
		1104	水質基準不適合率	$(\text{水質基準不適合回数} / \text{全検査回数}) \times 100$	%	低い程良	0.0	0.0	水質基準不適合はありませんでした。
		1105	加臭から見たおいしい水達成率	$[(1 - \text{ジエチルメルカプタン最大濃度} / \text{水質基準値}) + (1 - \text{2-メチルイソブチルメルカプタン最大濃度} / \text{水質基準値})] / 2 \times 100$	%	高い程良	100	100	ジエチルメルカプタン・2-メチルイソブチルメルカプタン共に検出しておりません。
		1106	塩素臭から見たおいしい水達成率	$[1 - (\text{年間残留塩素最大濃度} - \text{残留塩素水質管理目標値}) / \text{残留塩素水質管理目標値}] \times 100$	%	高い程良	28	40	年間残留塩素最大濃度が（0.64）、管理目標値は（0.4）です。
		1107	総トリハロメタン濃度	$(\text{総トリハロメタン最大濃度} / \text{総トリハロメタン濃度水質基準値}) \times 100$	%	低い程良	20	30	総トリハロメタン最大濃度（0.030）、総トリハロメタン濃度水質基準値（0.1）です。
		1108	有機物（TOC）濃度水質基準比	$(\text{有機物最大濃度} / \text{有機物水質基準値}) \times 100$	%	低い程良	30	30	有機物最大濃度（0.9）、有機物水質基準値（3.0）です。
		1109	農薬濃度水質基準比	$(\text{測定を実施した農薬類の最大濃度をそれぞれの水質管理目標値で除した値の合計}) / \text{測定を実施した農薬数} \times 100$	%	低い程良	0.000	0.000	測定を実施した農薬類（96種類）です。
		1110	重金属濃度水質基準比	$(\text{重金属（6項目）毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計}) / 6 \times 100$	%	低い程良	0	0	重金属（6項目）とは、カドミウム及びその化合物・水銀及びその化合物・鉛及びその化合物・ヒ素及びその化合物・六価クロム化合物

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）	
安心（全ての国民が安心しておいしく飲める水道水の供給）	水源から給水栓までの水質管理	1111	無機物質濃度水質基準比	（無機物質（6項目）毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計）／6×100	%	低い程良	10	10	無機物質（6項目）とは、アルミウム及びその化合物・塩化物イオン・カルシウム・マグネシウム等（硬度）・鉄及びその化合物・マンガン及びその化合物・トリウム及びその化合物
		1112	有機物質濃度水質基準比	（有機物質（4項目）毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計）／4×100	%	低い程良	5	6	有機物質（4項目）とは、陰イオン界面活性剤・非イオン界面活性剤・フェノール類・色度をいう。
		1113	有機塩素化学物質濃度水質基準比	（有機塩素化学物質（8項目）毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計）／8×100	%	低い程良	0	0	有機塩素化学物質（8項目）とは、四塩化炭素・1,1-ジクロロエチレン・ジクロロメタン・ジフルオロメタン・1,2-ジクロロエチレン・トリクロロエチレン・トリクロロメタン・ペンタフルオロエチレン・1,2-ジフルオロエタン（1,1,2-トリクロロエタンはH22より項目削除）
		1114	消毒副生成物濃度水質基準比	（消毒副生成物（5項目）毎の最大濃度をそれぞれの水質基準値で除した値の合計）／5×100	%	低い程良	13	9	消毒副生成物（5項目）とは、臭素酸・クロロ酢酸・ジクロロ酢酸・トリクロロ酢酸・ホルムアルデヒド
		1115	直結給水率	（直結給水件数／給水件数）×100	%	高い程良	98.7	98.7	直結給水件数（46,977件）、給水件数（47,586件）です。
		1116	活性炭投入率	（年間活性炭投入日数／年間日数）×100	%	—	0.0	0.0	活性炭は投入していません。
		1117	鉛製給水管率	（鉛製給水管使用件数／給水件数）×100	%	低い程良	9.5	9.1	鉛製給水管使用件数（4,316件）、給水件数（47,586件）です。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）
安定（いつでもどこでも安定的に生活用水を確保） 連続した水道水の供給	2001	給水人口一人当たり貯留飲料水量	$[(\text{配水池総容量}(\text{緊急貯水槽容量は除く}) \times 1/2 + \text{緊急貯水槽容量}) / \text{給水人口}] \times 1000$	L/人	高い程良	160	161	配水池総容量（35,536 $\text{m}^3$ ）、緊急貯水槽容量（0 $\text{m}^3$ ）、給水人口（110,562人）です。
	2002	給水人口一人当たり配水量	$(\text{一日平均配水量} / \text{給水人口}) \times 1000$	L/日/人	—	301	303	一日平均配水量（33,496 $\text{m}^3$ ）、給水人口（110,562人）です。
	2003	浄水予備力確保率	$[(\text{全浄水施設能力} - \text{一日最大浄水量}) / \text{全浄水施設能力}] \times 100$	%	—	0.0	0.2	全浄水施設能力（17,500 $\text{m}^3$ ）、一日最大浄水量（17,472 $\text{m}^3$ ）です。
	2004	配水池貯留能力	配水池総容量 / 一日平均配水量	日	高い程良	1.06	1.06	配水池総容量（35,536 $\text{m}^3$ ）、一日平均配水量（33,496 $\text{m}^3$ ）です。
	2005	給水制限数	年間給水制限日数	日	低い程良	0	0	給水制限していません。
	2006	普及率	$(\text{給水人口} / \text{給水区域内人口}) \times 100$	%	高い程良	100.0	100.0	平成9年度より100%です。
	2007	配水管延長密度	配水管延長 / 給水区域面積	km/km $^2$	—	16.8	16.8	配水管延長（441.4km）、給水区域面積（26.32km $^2$ ）です。
	2008	水道メ-タ密度	水道メ-タ数 / 配水管延長	個/km	高い程良	107	108	水道メ-タ数（47,586個）、配水管延長（441.4km）です。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）
安定（いつでもどこでも安定的に生活用水を確保） 将来への備え	2101	経年化浄水施設率	$(\text{法定耐用年数を越えた浄水施設能力} / \text{全浄水施設能力}) \times 100$	%	低い程良	0.0	0.0	法定耐用年数を越えた浄水施設はありません。
	2102	経年化設備率	$(\text{経年化年数を越えている電気・機械設備数} / \text{電気・機械設備の総数}) \times 100$	%	低い程良	29.4	29.4	経年化年数を越えている電気・機械設備数（5箇所）、電気・機械設備の総数（17箇所）です。
	2103	経年化管路率	$(\text{経年化年数を越えた管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	%	低い程良	23.9	24.2	経年化年数を越えた管路延長（110.0km）、管路総延長（454.0km）です。
	2104	管路の更新率	$(\text{更新された管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	%	高い程良	0.65	0.70	更新された管路延長（3.2km）、管路総延長（454.0km）です。
	2105	管路の更生率	$(\text{更生された管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	%	—	0.000	0.000	更生された管路延長（0km）、管路総延長（454.0km）です。
	2106	バルブの更新率	$(\text{更新されたバルブ数} / \text{管路に設置されているバルブ数}) \times 100$	%	高い程良	0.34	1.41	更新されたバルブ数（180個）、管路に設置されているバルブ数（12,729個）です。
	2107	管路の新設率	$(\text{新設管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	%	—	0.68	0.34	新設管路延長（1.5km）、管路総延長（454.0km）です。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）	
安定（いつでもどこでも安定的に生活用水を確保）	リスクの管理	2201	水源の水質事故数	年間水源水質事故件数	件	低い程良	0	0	水源水質事故はありませんでした。
		2202	幹線管路の事故割合	$(\text{幹線管路の事故件数} / \text{幹線管路延長}) \times 100$	件/100km	低い程良	0.0	0.0	基幹管路での事故はありませんでした。
		2203	事故時配水量率	$(\text{事故時配水量} / \text{一日平均配水量}) \times 100$	%	高い程良	88.1	88.1	事故時配水量（29,500m <sup>3</sup> ）、一日平均配水量（33,496m <sup>3</sup> ）です。
		2204	事故時給水人口率	$(\text{事故時給水人口} / \text{給水人口}) \times 100$	%	低い程良	0.0	0.0	事故時給水人口（0人）、給水人口（110,562人）です。 ※事故時給水人口とは、浄水場が24時間停止した場合、給水できない人口です。
		2205	給水拠点密度	$(\text{配水池} \cdot \text{緊急貯水槽数} / \text{給水区域面積}) \times 100$	箇所/100K m <sup>2</sup>	高い程良	38.0	38.0	配水池・緊急貯水槽数（10箇所）、給水区域面積（26.32km <sup>2</sup> ）です。
		2206	系統間の原水融通率	$(\text{原水融通能力} / \text{受水側浄水能力}) \times 100$	%	高い程良	0.0	0.0	本市の自己水水源は石川水源及び地下水で、他水源との融通能力はありませんが、企業団水道を受水し配水管網の整備により断水などの影響がないようにしています。
		2207	浄水施設耐震率	$(\text{耐震対策の施されている浄水施設能力} / \text{全浄水施設能力}) \times 100$	%	高い程良	71.4	71.4	耐震化された浄水施設は（1箇所）です。
		2208	ポンプ所耐震施設率	$(\text{耐震対策の施されているポンプ所能力} / \text{全ポンプ所能力}) \times 100$	%	高い程良	0.0	0.0	耐震化されたポンプ所はありません。
		2209	配水池耐震施設率	$(\text{耐震対策の施されている配水池容量} / \text{配水池総容量}) \times 100$	%	高い程良	45.0	45.0	耐震対策の施されている配水池（低区第2配水池・高区配水池）容量（16,000m <sup>3</sup> ）、配水池総容量（35,536m <sup>3</sup> ）です。
		2210	管路の耐震化率	$(\text{耐震管延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	%	高い程良	23.9	24.8	耐震管延長（112.6km）、管路総延長（454.0km）です。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）
安定（いつでもどこでも安定的に生活用水を確保） リスクの管理	2211	薬品備蓄日数	平均薬品貯蔵量／一日平均使用量	日	高い程良	*59.4	*51.3	石川・壺井浄水場の平均値です。
	2212	燃料備蓄日数	平均燃料貯蔵量／一日使用量	日	高い程良	0.9	0.9	平均燃料貯蔵量（1.95 t）、一日使用量（2.20 t）です。
	2213	給水車保有度	（給水車数／給水人口）×1000	台/1,000人	高い程良	0.0090	0.0090	給水車数（1台）、給水人口（110,562人）です。
	2214	可搬ホリタツホリハツ保有度	（可搬ホリタツホリハツ数／給水人口）×1000	個/1,000人	高い程良	382.8	429.6	可搬ホリタツホリハツ数（47,500枚）、給水人口（110,562人）です。
	2215	車載用の給水タツ保有度	（車載用給水タツの総容量／給水人口）×1000	m <sup>3</sup> /1,000人	高い程良	0.12	0.10	車載用給水タツの総容量（11 m <sup>3</sup> ）、給水人口（110,562人）です。
	2216	自家用発電設備容量率	（自家用発電設備容量／当該設備の電力総容量）×100	%	高い程良	*60.0	*60.0	石川・壺井浄水場、伊賀・西浦受水場、羽曳山配水場の平均値です。
	2217	警報付施設率	（警報付施設数／全施設数）×100	%	高い程良	100.0	100.0	施設（9箇所）全てに警報装置があります。
	2218	給水装置の凍結発生率	（給水装置の年間凍結件数／給水件数）×1000	件/1,000件	低い程良	0.505	0.000	給水装置凍結件数（0件）です。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）
持続（いつまでも安心して できる水を安定して供給） 地域特性にあった運営 基盤の強化	3001	営業収支比率	$(\text{営業収益} / \text{営業費用}) \times 100$	%	高い程良	98.2	103.5	営業収益（1,935,224,821円）、 営業費用（1,869,460,544円）です。
	3002	経常収支比率	$[(\text{営業収益} + \text{営業外収益}) / (\text{営業費用} + \text{営業外費用})] \times 100$	%	高い程良	119.8	126.3	営業収益（1,935,224,821円）、 営業外収益（481,122,068円）、 営業費用（1,869,460,544円）、 営業外費用（43,119,095円）です。
	3003	総収支比率	$(\text{総収益} / \text{総費用}) \times 100$	%	高い程良	119.7	126.2	総収益（2,416,346,889円）、 総費用（1,914,379,039円）です。
	3004	累積欠損金比率	$[(\text{累積欠損金} / (\text{営業費用} - \text{受託工事収益}))] \times 100$	%	低い程良	0.0	0.0	累積欠損金はありません。
	3005	繰入金比率（収益的収入分）	$(\text{損益勘定繰入金} / \text{収益的収入}) \times 100$	%	—	0.1	0.1	損益勘定繰入金（3,366,631円）、 収益的収入（2,416,346,889円）です。
	3006	繰入金比率（資本的収入分）	$(\text{資本勘定繰入金} / \text{資本的収入}) \times 100$	%	—	52.3	1.1	資本勘定繰入金（3,157,260円）、 資本的収入（279,477,520円）です。
	3007	職員一人当たり給水収益	$(\text{給水収益} / \text{損益勘定所属職員数}) / 1000$	千円/人	高い程良	81,718	84,900	給水収益（1,867,801,352円）、 損益勘定所属職員数（22人）です。
	3008	給水収益に対する職員給与費の割合	$(\text{職員給与費} / \text{給水収益}) \times 100$	%	低い程良	11.3	11.1	職員給与費（206,528,320円）、 給水収益（1,867,801,352円）です。
	3009	給水収益に対する企業債利息の割合	$(\text{企業債利息} / \text{給水収益}) \times 100$	%	低い程良	1.9	1.7	企業債利息（31,642,775円）、 給水収益（1,867,801,352円）です。
	3010	給水収益に対する減価償却費の割合	$(\text{減価償却費} / \text{給水収益}) \times 100$	%	低い程良	32.7	37.7	減価償却費（704,165,328円）、 給水収益（1,867,801,352円）です。



水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）
持続（いつまでも安心して 水を安定して供給） 地域特性にあった運営 基盤の強化	3011	給水収益に対する企業 償還金の割合	$(\text{企業償還金} / \text{給水収益}) \times 100$	%	低い程良	5.6	5.8	企業償還金（107,897,957円）、 給水収益（1,867,801,352円）です。
	3012	給水収益に対する企業 債残高の割合	$(\text{企業債残高} / \text{給水収益}) \times 100$	%	低い程良	58.6	53.2	企業債残高（993,056,677円）、 給水収益（1,867,801,352円）です。
	3013	料金回収率	$(\text{供給単価} / \text{給水原価}) \times 100$	%	高い程良	115.5	126.7	供給単価（159.4円）、 給水原価（125.9円）です。
	3014	供給単価	給水収益 / 有収水量	円/m <sup>3</sup>	低い程良	159.6	159.5	給水収益（1,867,801,352円）、 有収水量（11,711,721m <sup>3</sup> ）です。
	3015	給水原価	$[\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{附帯事業費} + \text{長期前受金戻入})] / \text{有収水量}$	円/m <sup>3</sup>	低い程良	138.2	125.9	経常費用（1,912,579,639円）、 受託工事費（21,908,884円）、 材料及び不用品売却原価（0円）、 附帯事業費（0円）、長期前受金戻入 （416,212,392円）です。
	3016	1ヶ月当たり家庭用料 金（10m <sup>3</sup> ）	1箇月当たりの一般家庭用（口径13mm）の基本料金 +10m <sup>3</sup> 使用時の従量料金	円	低い程良	966	966	メータ口径による料金の違いはありません。
	3017	1ヶ月当たり家庭用料 金（20m <sup>3</sup> ）	1箇月当たりの一般家庭用（口径13mm）の基本料金 +20m <sup>3</sup> 使用時の従量料金	円	低い程良	2,694	2,694	メータ口径による料金の違いはありません。
	3018	有収率	$(\text{有収水量} / \text{給水量}) \times 100$	%	高い程良	96.1	95.8	有収水量（11,711,721m <sup>3</sup> ）、 給水量（12,226,214m <sup>3</sup> ）です。
	3019	施設利用率	$(\text{一日平均給水量} / \text{一日給水能力}) \times 100$	%	—	72.5	72.5	一日平均給水量（33,496m <sup>3</sup> ）、 一日給水能力（46,200m <sup>3</sup> ）です。
	3020	施設最大稼働率	$(\text{一日最大給水量} / \text{一日給水能力}) \times 100$	%	—	83.5	83.0	一日最大給水量（38,358m <sup>3</sup> ）、 一日給水能力（46,200m <sup>3</sup> ）です。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）	
持続（いつまでも安心して できる水を安定して供給）	地域特性にあつた運営基盤の強化	3021	負荷率	$(\text{一日平均給水量} / \text{一日最大給水量}) \times 100$	%	—	86.8	87.3	一日平均給水量（33,496 $\text{m}^3$ ）、一日最大給水量（38,358 $\text{m}^3$ ）です。
		3022	流動比率	$(\text{流動資産} / \text{流動負債}) \times 100$	%	高い程良	251.6	294.0	流動資産（3,670,384,422円）、流動負債（1,248,506,202円）です。
		3023	自己資本構成比率	$[(\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}) / \text{負債資本合計}] \times 100$	%	高い程良	89.4	89.9	資本金（7,220,050,606円）、剰余金（3,587,656,614円）、繰延収益（10,360,451,029円）、負債・資本合計（23,545,759,861円）です。
		3024	固定比率	$[\text{固定資産} / (\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益})] \times 100$	%	低い程良	96.7	93.9	固定資産（19,875,375,439円）、資本金（7,220,050,606円）、剰余金（3,587,656,614円）、繰延収益（10,360,451,029円）です。
		3025	企業債償還元金対減価償却費比率	$(\text{企業債償還元金} / \text{当年度減価償却費}) \times 100$	%	低い程良	17.0	15.3	企業債償還元金（107,897,957円）、当年度減価償却費（704,165,328円）です。
		3026	固定資産回転率	$(\text{営業収益} - \text{受託工事収益}) / [(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) / 2]$	回	高い程良	0.10	0.10	営業収益（1,935,224,821円）、受託工事収益（13,666,200円）、期首固定資産（20,115,353,217円）、期末固定資産（19,875,375,439円）です。
		3027	固定資産使用効率	$(\text{給水量} / \text{有形固定資産}) \times 10,000$	$\text{m}^3 / 10,000$ 円	高い程良	6.1	6.2	給水量（12,226,214 $\text{m}^3$ ）、有形固定資産（19,709,668,119円）です。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）	
持続（いつまでも安心して できる水を安定して供給）	水道文化・技術の 伝承と発展	3101	職員資格取得度	職員が取得している法定資格数／全職員数	件/人	高い程良	2.57	3.19	職員が取得している法定資格数（86件）、全職員数（27人）です。
		3102	民間資格取得度	職員が取得している民間資格取得数／全職員数	件/人	高い程良	0.0	0.0	職員が取得している民間資格取得数（0件）、全職員数（27人）です。
		3103	外部研修時間	（職員が外部研修を受けた時間・人数）／全職員数	時間	高い程良	11.1	9.2	職員が外部研修を受けた時間・人数（249時間）、職員数（27人）です。
		3104	内部研修時間	（職員が内部研修を受けた時間・人数）／全職員数	時間	高い程良	1.9	1.9	職員が内部研修を受けた時間・人数（50時間）、全職員数（27人）です。
		3105	技術職員率	（技術職員総数／全職員数）×100	%	—	57.1	51.9	技術職員総数（14人）、全職員数（27人）です。
		3106	水道業務経験年数度	全職員の水道業務経験年数／全職員数	年/人	—	11.8	11.4	全職員の水道業務経験年数（308年）、全職員数（27人）です。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）	
持続（いつまでも安心して できる水を安定して供給）	水道文化・ 技術の伝承と発展	3107	技術開発職員率	$(\text{技術開発業務従事職員数} / \text{全職員数}) \times 100$	%	—	0.00	0.00	水道技術に関する研究開発は行っていません。
		3108	技術開発費率	$(\text{技術開発費} / \text{給水収益}) \times 100$	%	—	0.00	0.00	水道技術に関する研究開発は行っていません。
		3109	職員一人当たり配水量	年間配水量 / 全職員数	m <sup>3</sup> /人	高い程良	437,600	452,800	年間配水量（12,226,214m <sup>3</sup> ）、 全職員数（27人）です。
		3110	職員一人当たりメ-タ数	水道メ-タ総数 / 全職員数	個/人	高い程良	1,696	1,762	水道メ-タ総数（47,586個）、 全職員数（27人）です。
		3111	公傷率	$[\text{公傷で休務した延べ人} \cdot \text{日数}] / (\text{全職員数} \times \text{年間公務日数}) \times 100$	%	低い程良	0.000	0.000	公傷で休務した職員はいません。
		3112	直接飲用率	$(\text{直接飲用回答数} / \text{アンケート回答総数}) \times 100$	%	高い程良	100.0	-	全ての直接飲用者にアンケート回答済み

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）	
持続（いつまでも安心して 水を安定して供給）	消費者ニーズを こまめに満たした給水 サービスの充実	3201	水道事業に係る情報の提供度	広報誌配付部数／給水件数	部/件	高い程良	12.4	12.4	広報誌配付部数（592,031枚）、給水件数（47,586件）です。
		3202	ETV割合	$(\text{ETV人数} / \text{給水人口}) \times 1000$	人/1,000人	高い程良	0.0	0.0	水道ETV制度はありません。
		3203	アンケート情報収集割合	$(\text{アンケート回答人数} / \text{給水人口}) \times 1000$	人/1,000人	高い程良	0.00	0.00	アンケートは実施していません。
		3204	水道施設見学者割合	$(\text{見学者数} / \text{給水人口}) \times 1000$	人/1,000人	高い程良	10.1	8.5	見学者数（937人）、給水人口（110,562人）です。
		3205	水道サービスに対する苦情割合	$(\text{水道サービス苦情件数} / \text{給水件数}) \times 1000$	件/1,000件	低い程良	0.44	0.34	水質サービス苦情件数（16件）、給水件数（47,586件）です。
		3206	水質に対する苦情割合	$(\text{水質苦情件数} / \text{給水件数}) \times 1000$	件/1,000件	低い程良	0.44	0.34	水質苦情件数（16件）、給水件数（47,586件）です。
		3207	水道料金に対する苦情割合	$(\text{水道料金苦情件数} / \text{給水件数}) \times 1000$	件/1,000件	低い程良	0.000	0.000	水道料金苦情件数（0件）、給水件数（47,586件）です。
		3208	監査請求数	年間監査請求件数	件	—	0	0	監査請求はありませんでした。
		3209	情報開示請求数	年間情報開示請求件数	件	—	0	1	情報開示請求数（1件）
		3210	職員一人当たり受付件数	受付件数／全職員数	件/人	高い程良	250	258	受付件数（給水申込（427件）、水質苦情（16件）、開栓申込（2,402件）、閉栓申込（2,604件）、口座振替申込（1,529件））、全職員数（27人）です。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）	
環境（環境保全への貢献）	地球温暖化防止、環境保全などの推進	4001	配水量1m <sup>3</sup> 当たり電力消費量	総電力量／年間配水量	KWH/m <sup>3</sup>	低い程良	0.36	0.40	総電力量（4,856,441kwh）、年間配水量（12,226,214m <sup>3</sup> ）です。
		4002	配水量1m <sup>3</sup> 当たり消費I補給-	全施設での総I補給-消費量／年間配水量	MJ/m <sup>3</sup>	低い程良	1.29	1.43	全施設での総I補給-消費量（17,483,188mj）、年間配水量（12,226,214m <sup>3</sup> ）です。
		4003	再生可能I補給-利用率	（再生可能I補給-設備の電力使用量／全施設の電力使用量）×100	%	高い程良	0.0	0.0	再生可能I補給-設備はありません。
		4004	浄水発生土の有効利用率	（有効利用土量／浄水発生土量）×100	%	高い程良	0.0	0.0	浄水発生土は有効利用していません。
		4005	建設副産物のリサイクル率	（リサイクルされた建設副産物量／建設副産物排出量）×100	%	高い程良	100.0	100.0	建設副産物（2,592t）は全てリサイクルされました。
		4006	配水量1m <sup>3</sup> 当たり二酸化炭素（CO2）排出量	[総二酸化炭素（Co2）排出量／年間配水量] × 10 <sup>^6</sup>	g・CO2/m <sup>3</sup>	低い程良	*93	202	総二酸化炭素（Co2）排出量（2,471t・Co2）、年間配水量（12,226,214m <sup>3</sup> ）です。
	健全な水循環	4101	地下水率	（地下水揚水量／水源利用水量）×100	%	—	14.4	14.7	地下水揚水量（1,798,620m <sup>3</sup> ）、水源利用水量（12,270,961m <sup>3</sup> ）です。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）	
管理（水道システムの適正な実行・業務運営及び維持管理）	適正な実行・業務運営	5001	給水圧不適正率	[適正な範囲になかった圧力測定箇所・日数 / (圧力測定箇所総数×年間日数)] × 100	%	低い程良	0.36	0.31	適正な範囲になかった圧力測定箇所・日数（6）、圧力測定箇所総数×年間日数（1,931箇所）です。
		5002	配水池清掃実施率	[最近5年間に清掃した配水池容量 / (配水池総容量 / 5)] × 100	%	高い程良	478	490	最近5年間に清掃した配水池容量（34,832㎡）、配水池総容量（35,536㎡）です。
		5003	年間ポンプ平均稼働率	[ポンプ運転時間の総計 / (ポンプ総台数×年間日数 × 24)] × 100	%	参考	33.4	36.6	ポンプ運転時間の総計（83,471時間）、ポンプ総台数（26台）です。
		5004	検針誤り割合	(誤検針件数 / 検針総件数) × 1000	件/1,000件	低い程良	0.01	0.01	誤検針件数（3件）、検針総件数（291,457件）です。
		5005	料金請求誤り割合	(誤料金請求件数 / 料金請求総件数) × 1000	件/1,000件	低い程良	0.00	0.01	誤料金請求件数（2件）、料金請求総件数（257,255件）です。
		5006	料金未納率	(年度末未納料金総額 / 総料金収入額) × 100	%	低い程良	9.9	9.4	年度末未納料金総額（190,407,030円）、総料金収入額（2,022,326,950円）です。
		5007	給水停止割合	(給水停止件数 / 給水件数) × 1000	件/1,000件	低い程良	3.3	3.8	給水停止件数（180件）、給水件数（47,586件）です。
		5008	検針委託率	(委託した水道メータ数 / 水道メータ数) × 100	%	—	100.0	100.0	水道メータ（47,586個）全て検針委託しています。
		5009	浄水場第三者委託率	(第三者委託した浄水場能力 / 全浄水場能力) × 100	%	—	0.0	0.0	浄水場の運転・管理のみを委託していません。 ※包括的な第三者委託は行っていません。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）	
管理（水道システムの適正な実行・業務運営及び維持管理）	適正な維持管理	5101	浄水場事故割合	10年間の浄水場停止事故件数／浄水場総数	10年間の件数/箇所	低い程良	0.0	0.0	10年間の浄水場停止事故件数（0件）、浄水場総数（2箇所）です。
		5102	ダクタイル鉄管・鋼管率	$[(ダクタイル鉄管延長+鋼管延長) / 管路総延長] \times 100$	%	—	65.6	65.9	ダクタイル鉄管延長（296.7km）、鋼管延長（2.3km）、管路総延長（454.0km）です。
		5103	管路の事故割合	$(管路の事故件数 / 管路総延長) \times 100$	件/100km	低い程良	10.1	6.6	管路の事故件数（30件）、管路総延長（454.0km）です。
		5104	鉄製管路の事故割合	$(鉄製管路の事故件数 / 鉄製管路総延長) \times 100$	件/100km	低い程良	1.9	2.2	鉄製管路の事故件数（7件）、鉄製管路総延長（322.3km）です。
		5105	非鉄製管路の事故割合	$(非鉄製管路の事故件数 / 非鉄製管路総延長) \times 100$	件/100km	低い程良	30.1	17.5	非鉄製管路の事故件数（23件）、非鉄製管路総延長（132.0km）です。
		5106	給水管の事故割合	$(給水管の事故件数 / 給水件数) \times 1000$	件/1,000件	低い程良	10.6	10.5	給水管の事故件数（502件）、給水件数（47,586件）です。
		5107	漏水率	$(年間漏水量 / 年間配水量) \times 100$	%	低い程良	0.3	0.7	年間漏水量（88,818 $m^3$ ）、年間配水量（12,226,214 $m^3$ ）です。
		5108	給水件数当たりの漏水量	年間漏水量／給水件数	$m^3$ /年/件	低い程良	0.8	1.9	年間漏水量（88,818 $m^3$ ）、給水件数（47,586件）です。
		5109	断水・濁水時間	$(断水・濁水時間 \times 断水・濁水区域給水人口) / 給水人口$	時間	低い程良	データなし	データなし	



水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）	
管理（水道システムの適正な実行・業務運営及び維持管理）	適正な維持管理	5110	設備点検実施率	$(\text{電気・計装・機械設備等の点検回数} / \text{電気・計装・機械設備の法定点検回数}) \times 100$	%	高い程良	4,550	4,550	電気・計装・機械設備等の点検回数（1,365回）、電気・計装・機械設備の法定点検回数（30回）です。
		5111	管路点検率	$(\text{点検した管路延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	%	高い程良	46	46	点検した管路延長（209.9km）、管路総延長（454.0km）です。
		5112	バルブ設置密度	バルブ設置数／管路総延長	基/km	高い程良	27.7	28.0	バルブ設置数（12,718個）、管路総延長（454.0km）です。
		5113	消火栓点検率	$(\text{点検した消火栓数} / \text{消火栓総数}) \times 100$	%	高い程良	100.0	100.0	点検した消火栓数（1,597基）消火栓総数（1,597基）
		5114	消火栓設置密度	消火栓数／配水管延長	基/km	高い程良	3.6	3.6	消火栓数（1,597基）、配水管延長（441.4km）です。
		5115	貯水槽水道指導率	$(\text{貯水槽水道指導件数} / \text{貯水槽水道総数}) \times 100$	%	高い程良	100.0	100.0	貯水槽水道（609箇所）全てに管理・調査及び、清掃依頼を通知しました。

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（PI）の試算結果  
【羽曳野市水道局】

分類	番号	業務指標名称	定義	単位	指標	27年度	28年度	説明（28年度）
国際（わが国の経験の海外移転による国際貢献）	技術の移転	6001 国際技術等協力度	人的技術等協力者数×滞在週数	人・週	高い程良	0	0	人的技術等協力はしていません。
	国際機関、諸国との交流	6002 国際交流数	年間人的交流件数	件	高い程良	0	0	人的交流はしていません。